

浅野文庫等施設（仮称）整備に係る基本方針及び設計条件等

I はじめに

この設計条件等は、「浅野文庫等施設（仮称）整備基本計画（令和6年4月）」に基づき、基本・実施設計業務を行うに当たり、必要な諸条件等を定めるものである。

II 基本方針

1 事業目標

本施設は、現中央図書館で保管している「浅野文庫を始めとした古文書等」及び「広島文学資料」を一体的に保存・活用できる施設とするとともに、既存資料に加え、近世以降の古文書や古書、新たなゆかりの文学者の自筆原稿等の現物資料を収集し、その充実に取り組むことで、近世から現代に至るまでの郷土の歴史・文化を体系的に伝えることができる施設とする。

また、本施設は、大正15年に浅野長勲（ながこと）氏が広島に於ける文教の発展や人々の研究に役立てたいと願って整備した浅野図書館の思いや流れを汲むことや郷土についてより深く学びたいという思いに応えられる「郷土に関することを学び、調査・研究する専門図書館」として整備し、「郷土の歴史・文化を伝え、郷土愛をはぐくむ図書館」を目指すこととする。

さらに、広島市立図書館ネットワークにおいて、本施設は郷土に関する専門的な資料を収集・提供する中央館に位置付け、同じく一般的な資料収集・提供する中央館のエールエールA館に移転する新図書館と連携し、両施設の魅力向上を図る。

2 施設整備方針

郷土の歴史、文化、産業等の学びと広島の歴史と文化の継承を目的とした施設を整備する。

- (1) 貴重資料の収蔵環境は、恒久的な保存環境を維持するため、文化庁が認定する「公開承認施設※1」の基準に準拠することとし、将来の増加分を見込んだ収蔵庫を整備する。
- (2) 近世を中心とした郷土の歴史・文化を利用者が調査・研究できるスペースを整備し、これらに関する資料を配架し、閲覧できるようにするとともに、貴重資料についても、所定の手続きにより閲覧できるようにする。
- (3) 本施設の職員も調査・研究を行い、その成果を展示や事業展開などに活用する。
- (4) 来館者の興味・関心を喚起する魅力ある常設展示と、併せてコーナー全体を活用した企画展示を可能とする可変性を持った展示・図書コーナーを整備する。
- (5) 展示は、見せ方や伝え方について、大人から子ども、市民のみならず、広域都市圏や国内外からの来訪者が親しみをもち理解しやすく、かつ好奇心を持って楽しめるように留意する。
- (6) 施設の玄関口を広く開放的なエントランスとし、受付カウンターやロッカーなどを配置することで、利便性を高めるとともに、予約図書を受け取ることができるコーナーを整備する。
- (7) 資料の移動動線と利用者動線を明確に分離して資料の安全性を高めるとともに、調査・研究や管理運営にも配慮した配置計画とする。
- (8) 敷地が縮景園や「文化の道」に接しているという立地性や浅野文庫を始めとした古書や広島文学資料等の保存・活用等を行うという施設の特性などを踏まえ、「郷土の歴史・文化を伝え、郷土愛をはぐくむ」という理念を体現するような意匠とすること。
- (9) 敷地内を最大限活用する観点から、前面道路に位置する「文化の道」との関連性を意識した敷地内歩行空間を整備する。

※1 博物館や美術館などの国宝・重要文化財の所有者（管理団体を含む。）以外の者が、当該文化財を公開しようとする場合、文化庁長官の許可が必要とされているが、文化財の公開活用の観点から、文化財の公開に適した施設として、予め文化庁長官の承認を受けた場合、公開後の届出で足りることとされている（文化財保護法第53条）。

この承認を受けた施設を「公開承認施設」という。

Ⅲ 設計条件

1 敷地の条件

(1) 敷地の面積 約 1,900 m²

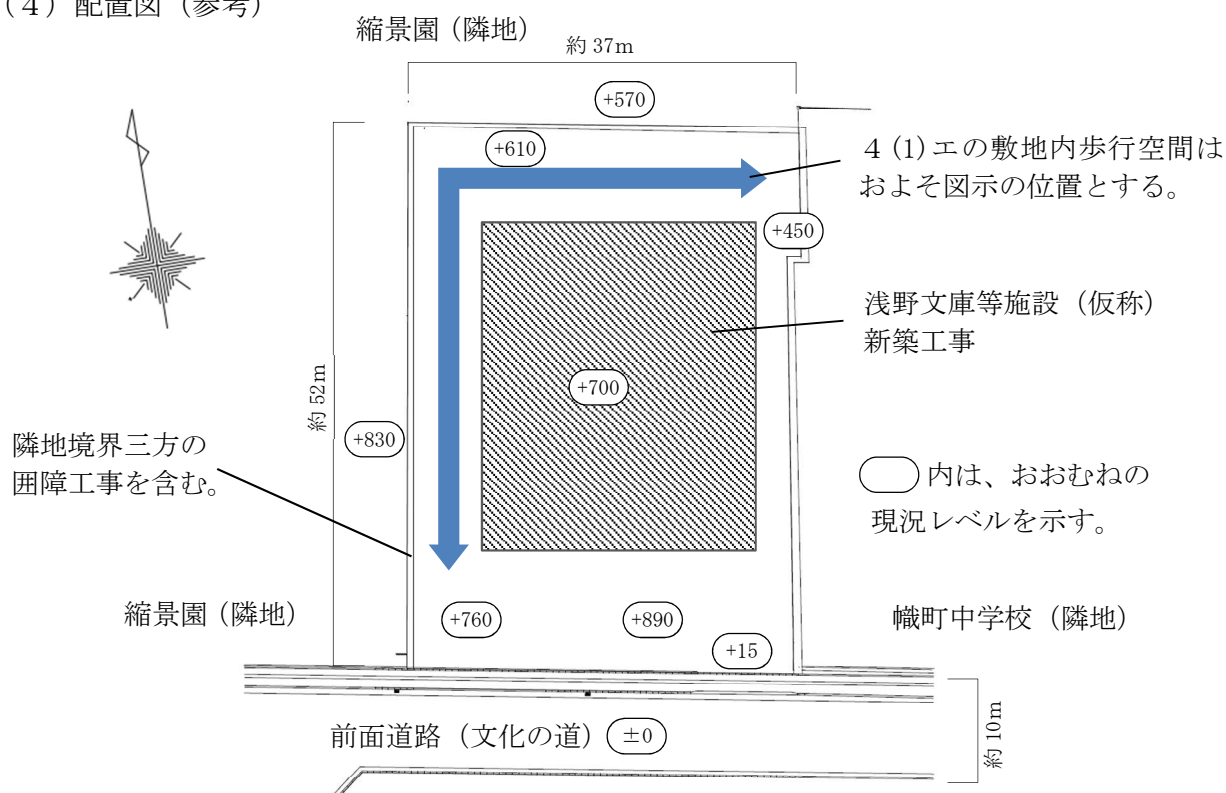
(2) 用途地域及び地区の指定

第二種住居地域（建蔽率 60%、容積率 300%（地区計画に定める容積率の要件に適合しない場合 200%））、準防火地域、広島駐車場整備地区、東部復興土地区画整理事業（事業完了）、広島市都心住居地域 地区計画、污水供用開始区域、景観計画重点地区（縮景園周辺地区）、縮景園の前面道路に面する部分、リバーフロント・シーフロント地区（リバーフロント地区）のエリア、高次都市機能誘導区域（都心型）、居住誘導区域

(3) 附近見取図



(4) 配置図（参考）



2 施設の条件

- (1) 施設の延べ面積（計画面積） 約 2,400 m²
- (2) 主要構造 鉄筋コンクリート造（想定）
- ※ 構造形式は、収蔵機能に求められる高い断熱性・気密性等が確保できるものとし、本業務において決定する。
- (3) 階数 地上 3 階建て程度
- (4) 施設の基本的性能等 「表 1 水準適用表（施設）」のとおり。
- (5) 室等の基本的性能等 「表 2 水準適用表（室等）」のとおり。

3 建設の条件

- 工事費（概算金額） 建 築：2,470,000 千円（税込）
（内、展示工事費 270,000 千円（税込）を含む。）
- 電 気： 350,000 千円（税込）
- 機 械： 530,000 千円（税込）
- 昇降機： 30,000 千円（税込）
- ※ 概算金額は、令和 5 年度時点の概算工事費

4 その他の設計と条件

- (1) 附帯施設
- ア 駐車場 平面式 6 台程度
（管理用 2 台、来館者用 3 台、車いす使用者用 1 台）
- ※ 「建築物における駐車施設の附置等に関する条例」及び「広島市公共施設福祉環境整備要綱」における義務台数を確保する。
- イ 自転車等駐車場 平面式 10 台程度の規模（屋根付き）
- ウ ごみ置場 ごみストッカー程度
- ※ 「共同住宅等建築物におけるごみ収集施設設置要綱」を満たす面積・位置等で計画する。
- (2) 外構
- ア 敷地内歩行空間 「文化の道」（前面道路）との関連性を意識したものとし、具体的な内容、仕様及び規模等については本業務において検討する。なお、およその位置は、1 (4) 配置図に示すとおり。
- イ 囲障 北側、西側及び東側の隣地境界に囲障を新設する。なお、西側の縮景園の地盤が、当該敷地より高い位置にあるため、土留めの措置を講じた計画とする必要がある。
- ウ 設計地盤の高さ 敷地北側は、縮景園側と同じ高さとする。
敷地南側は、接道する南側の市道（中 1 区 62 号線）の歩道と同じ高さとし、敷地東側及び西側は、前記の南北の間を擦り付ける高さとするが、施設の配置計画の工夫により、これと異なる高さの設定をすることができる。
- エ 築庭（既存） 敷地内にある既存の築庭については、施設の配置計画の工夫により、全て又は一部を存置することができる。
- オ 樹木（既存） 現状では当該敷地と縮景園との相互の視線を遮蔽する役割を果たしており、当該敷地内又は縮景園内の既存樹木については、縮景園との相互の眺望景観を十分に検討し、関係機関及び本市との協議を経て、存置、剪定又は伐採の選択をする。

(3) その他

ア その他の設計条件

浅野文庫等施設（仮称）整備基本計画（令和6年4月）

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/43/381275.html>

イ その他の業務

（ア）設計者は、本市が都市構造再編集集中支援事業等の補助金等に係る手続きを行う場合に、必要となる資料作成に協力すること。

（イ）別途発注予定である敷地内既存施設の解体工事設計と工事範囲等の調整を図ること。

ウ 設計上の配慮点

（ア）近隣住民や周辺環境に配慮する。

（イ）施設利用者の特性に配慮する。

（ウ）バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮する。

（エ）工法、仕様を多角的に検討し、基本性能の確保、工期及びライフサイクルコスト（建築コスト・維持管理コスト等）の縮減に努めること。

表 1 水準適用表（施設）

大項目	中項目	小項目		建物及び外部空間の要求水準			特記事項	
				要求水準 分類 種類	建物	外部空間		
					分 類	分 類		
社会性	地域性	地域性		I・II	I	I	景観重点地区であることに留意（特に縮景園からの眺望に配慮） 「平和の都心回廊」づくりにおいて「文化の道」として位置づけられている 道に接していることに留意	
	景観性	景観性		I・II	I	I		
環境 保全性	環境負荷 低減性	長寿命		○・一	○	○		
		適正使用・適正処理		○・一	○	○		
		エコマテリアル		○・一	○	○		
		省エネルギー・省資源		○・一	○	○	「ZEB Ready」の認証を取得する。	
	周辺環境 保全性	地域生態系保全		○・一	○	○		
		周辺環境配慮		○・一	○	○		
安全性	防災性	耐震	構造体	I・II・III	II			
			建築非構造部材	A・B	B	B		
			建築設備	甲・乙	乙	乙		
		対津波		○・一	－	－		
		対火災	火災時の 避難安全確保	I・II	I	I	貴重資料を保管、不特定かつ多数の人が利用	
		耐風	構造体	I・II・III	II		貴重資料を保管	
			建築非構造部材	I・II・III	II	II		
			建築設備	I・II・III	II	II		
		耐雪・耐寒	構造体	○・一	－			
			外部空間、建築 及び建築設備	○・一	○	○		
		対落雷		I・II・III	III			
		常時荷重		○・一	○	－	書庫等の積載荷重は「建築構造設計基準の資料」（国交省）を参考に設定すること（固定書架、集密書架）。	
		機能維持性	機能維持性		I・II	II	II	
		防犯性	防犯性		○・一	○	－	
		機能性	利便性	移動		○・一	○	○
操作				○・一	○	○		
ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザイン		○・一	○	○	建築物移動等円滑化（一般程度）基準への適合 市福祉環境整備要綱への適合		
室内環境性	衛生環境		○・一	○				
	振動		風	○・一	○			
情報化対応性	情報化対応		情報交流機能	I・II・一	II			
経済性	耐用性	耐久性	構造体	○・一	○			
			建築非構造部材	○・一	○	○		
			建築設備	○・一	○	○		
		メンテナンス		I・II	II			
	保全性	作業性		○・一	○	○		
		更新性		○・一	○	○		

※ 「I、II、III」、「A、B」及び「甲、乙」は、次に定める性能の水準の分類を示す（以下、これらの基準を「性能基準等」という。）。

- ・官庁施設の基本的性能基準
- ・官庁施設の総合耐震・対津波計画基準
- ・官庁施設の環境保全性基準
- ・官庁施設のユニバーサルデザインに関する基準
- ・官庁施設の防犯に関する基準

なお、これらの資料は、国土交通省（官庁営繕）のホームページに掲載されている。

※ 「耐震」に関する分類については、国土交通省「耐震安全性の目標及び分類の一覧」を参照すること。

※ 「○」は、性能基準等に定める性能の水準の「適用」を示し、「—」は、「適用外」を示す。

表 2 水準適用表（室等）																
大項目			安全性				機能性							想定面積 (㎡)	特記事項	
中項目			防災性		防犯性	室内環境						対情報化				
小項目			対火災		対浸水	防犯性	音環境	光環境	熱環境	空気環境	振動		情報処理機能			
			耐火	拡大初期防火の							設備振動 人の動作及び	交通				
要求水準分類種類			I II III IV	I II	I II III IV	I II III	I II III －	I II III	I II III －	I II －	○ －	○ －	I II III －			
区分	室名	室の概要・室の要件	要求水準分類													
収蔵 エリア	第一収蔵庫	現中央図書館の収蔵庫（浅野文庫等）に収納している資料を保管	I	I	I	I	III	III	III	II	○	○	－	115	【共通】 ■2階に配置する。 ■貴重資料閲覧室までの距離を最小限に配慮、安全かつ効率的な移動動線とする。 ■上階に水回りを配置しない。 ■収蔵環境は「公開承認施設」の基準に準拠する。 ■耐火・耐震性能を確保する構造とする。 ■各収蔵庫で個別の防火区画とし、収蔵庫の出入口扉は耐火性能を有した収蔵庫扉とする。 ■建物躯体は外部からの延焼を防ぐ仕様とする。 ■外壁などの1次壁と内装壁の2重壁構造とし、高い断熱性・気密性・調湿性を確保した仕様とする。 ■温度22℃、相対湿度55％を基準とした恒温恒湿とする。 ■空調設備は24時間自動運転を基本とするが、運用に応じて時間運転なども可能な仕様とする。 ■空調設備の吹出し・吸込み口は収蔵什器の配置に応じて設定する。 ■外気取入口は防火・防犯、外部からの雨水や汚染空気、虫菌の侵入防止に配慮した仕様とする。	
	第二収蔵庫	広島文学資料及び古文書等を保管	I	I	I	I	III	III	III	II	○	○	－	230		■ガス系消火設備を整備する。 ■照明設備は紫外線を出さない部分点灯や調光可能な仕様が望ましい。 ■電源設備はトラッキング防止のため退室時にリモコンスイッチにより通電を切れる仕様とする。 ■収蔵什器は、地震等による移動、転倒、落下及び収納品の落下防止を考慮したものとする。 ■収蔵什器の仕様や配置は、カビの抑制や清掃・点検に容易さ、空気循環を考慮した計画とする。
	収蔵庫前室	収蔵庫への直接外気（外乱要因）流入を防止	I	I	I	I	III	III	III	II	○	○	III	35	■原則として、収蔵庫と同等の仕様とする。	
	一時保管庫	新規収集資料の受入場所。本室で資料の状態を確認し、必要があれば燻蒸する。	II	I	II	I	III	II	III	II	○	○	III	30	■低温燻蒸設備を設置予定 ■車両から図書等を搬出入する。	
閲覧 研究 エリア	貴重資料閲覧室	貴重資料の閲覧	II	II	II	II	III	II	II	I	○	○	III	50	■収蔵庫からの距離を最小限に配慮、安全かつ効率的な移動動線とする。 ■基本的に一般利用をせず、所定の手続きにより職員付添いでの利用を想定している。 ■貴重資料の撮影を行うため遮光性に配慮する。 ■照明設備は紫外線を出さない調光可能な仕様とする。	

閲覧 研究 エリア	閲覧室	利用者の閲覧	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	○	○	Ⅲ	240	■約1万冊の開架スペース及び新聞・雑誌コーナーを設置する。 ■閲覧席、調査研究ブースを設置する。 ■カウンター、PCコーナー（検索用、データベース用）を設置する。 ■書架配列は、全体の配置がすぐ理解しやすいように低書架・高書架の組み合わせを検討する。 ■BDS（未手続持ち出し防止装置）の設置を想定
	ワークスペース	職員の資料整理及び調査・研究スペース	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	○	○	Ⅱ	40	■閲覧室に近接する。
	書庫	閲覧室に配架できない資料等を保管	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	○	○	－	115	■約3万冊の収蔵スペース ■閲覧室に近接する。 ■書架の仕様は資料の出入れの容易さに加え、出入れ時の運用者の安全性にも十分に配慮した計画とする。 ■集密書架の設置
展示 活動 エリア	展示・図書コーナー	常設展示及び企画展示	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	○	○	Ⅲ	300	■外光が直接入る開口部を設けない。 ■照明設備は紫外線を出さない調光可能な仕様とする。 ■展示ケースは密閉性・耐震性を確保したものとし、ガラスは十分な強度を有した高透過のもので、飛散防止フィルムを張るものとする。 ■展示ケースは、文化財有害ガスの発生が少ない建材、内装材、塗料を使用する。 ■展示テーマに応じた各種展示設備（展示ケース、展示造作、映像音響装置、解説グラフィック等）を設置する。 ■展示されている貴重資料を考慮した浸水対策を検討する。 ■展示に関連した図書を配架できる図書コーナーを取り入れたものとする。
	セミナー室	講座や講演会などの開催	Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	○	○	Ⅲ	100	■収容人数40～50人程度を見込む。 ■調光可能な照明設備とする。 ■講座用のスクリーンや映像装置の設置を検討する。
事務 管理 エリア	事務室	職員の事務スペース	Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	○	○	Ⅱ	50	■給湯室を整備
	館長室兼応接室	館長の執務及び来客対応	Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	○	○	Ⅱ	25	■事務室と近接する。
	更衣室	職員の更衣室	Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	－	Ⅲ	－	－	－	－	－	20	■男女別
その他	各共用部	エントランス	Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	－	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	－	－	－	1,050	■受付カウンター及びセルフ式予約図書受取コーナー（市立図書館予約資料の受取）を設置する ■BDS（未手続持ち出し防止装置）の設置を想定
		各トイレ	Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	－	－	－		■1階、3階に設置する。 ■照明設備は人感センサー、昼光センサーの制御により省エネルギー化を検討する。
		授乳室、ロッカー	Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	－	－	－		
		機械室、電気室	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	－	Ⅲ	－	－	－	－	－		

※ 「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、「A、B」及び「甲、乙」は、次に定める性能の水準の分類を示す（以下、これらの基準を「性能基準等」という。）。

- ・官庁施設の基本的性能基準
- ・官庁施設の総合耐震・対津波計画基準
- ・官庁施設の環境保全性基準
- ・官庁施設のユニバーサルデザインに関する基準
- ・官庁施設の防犯に関する基準

なお、これらの資料は、国土交通省（官庁営繕）のホームページに掲載されている。

※ 「○」は、性能基準等に定める性能の水準の「適用」を示し、「－」は、「適用外」を示す。